

## 【熊本県納税貯蓄組合連合会会長賞】

### 税のありがたみを感じて

上天草市立大矢野中学校

二年 木下 友花

「わあ、新しい校舎、きれいだね。」「床も壁もピカピカだよ！」

私たちは約半年前、ピカピカの新校舎へと引っ越しをしました。今までの旧校舎とは打って変わり、どこを見周しても傷一つ、汚れ一つない新校舎。待ちに待った新校舎の完成に同級生たちも興奮を隠せない様子でした。

このように今、私たちの町では、多くの小中学校の校舎や体育館が新しく建て替えられています。ピカピカの建物に初めて入ることは何度も体験しても嬉しくてたまりません。

「税の作文で何をテーマにして書こうか。」そう考えているときに私はこれらの感動を思い出し、みんなの納めた税が自分たちの暮らしにつながっていることを実感しました。

そこで私は、このような校舎の建て替え工事には、どれくらいの税金が使われているのかを調べることにしました。

調べてみると、中学校の校舎の建て替えには、数億から数十億という、私たちには想像もできないくらいの費用がかかることや、それらのお金は主に地方自治体の予算、つまり住民の税金によって賄われることなどがわかりました。他にも、国からの補助金などが適用される場合もありますが、これらの補助金も多くが、私たちや家族が日々支払っている所得税や法人税、消費税などの国税を財源としています。

つまり、私たちが校舎や体育館の建て替えによつて得ていた感動や、快適で安全な生活は、元を辿れば、自分たちや家族、その身の回りの人が払った税金によるものだということです。

私は今まで、あまり身の回りのものに税金が使われている実感がなく、メディアで取り上げられた「もっと意味のあることに税金を使ってほしい」という意見に対し、深く考えずに賛同していました。でも、この作文を書いていくうちに、自分たちは気が付いていないだけで、税金は身の回りのいろんな事に役立てられているのだと思うようになりました。

私は実際、税についてまだまだわからないことばかりだし、払っているのも消費税くらいだけど、日本の人たちが頑張って稼いだお金から税を払つて日本を豊かにしてくれていることに感謝して、いつか自分もその一端を担うことができるようになといたいです。そしてそのときに、私みたいに、税で自分たちの生活が支えられていることのありがたみや、税による人ととのつながりに気が付いてくれる人がいたらしいな、と思いました。